平成30年度　第３回明石市総合教育会議（議事要旨）

日　時	2018年(平成30年)11月28日（水）15:30～16:10
場　所	明石市役所議会棟　第３委員会室
出席者	泉房穂市長、清重隆信教育長、栗岡誠司教育委員、井筒典久教育委員、 伊賀文計教育委員、川本まり子教育委員
協議・調整事項	⑴「本のまち 明石」の取り組みについて ⑵明石市制100周年記念日(2019年11月1日)の取り組みと午後の授業について ⑶その他
配付資料	・次第 ・資料１　「本のまち 明石」の取り組みについて ・資料２　明石市制100周年記念日（2019年11月1日）の取り組みと午後の授業について
事務局	政策局政策室

１　開　会

（市長）

・総合教育会議において、市長部局と教育委員会が密に連携しながら、情報共有化を図り、共に取り組んでいくことができればと思っている。

・本日は２つのテーマがあり、早速、「本のまち 明石」の議事について入りたい。

２　議　事

⑴　「本のまち 明石」の取り組みについて

・教育長から、資料１に基づき、「本のまち 明石」の取り組みについて説明。

（市長）

・明石市は、地方創生総合戦略において「人口 30 万人」「赤ちゃん 3,000 人」「本の貸出冊数 300 万冊」という、まちづくりにおける基本的な数値目標を掲げているまちである。

・人口や出生などのテーマだけでなく、文化の薫り高い、質を重視する観点も含めた「本のまち」を掲げており、まちづくりの重要な施策だと認識している。

・2017 年度は 292 万冊まで伸びているが、今年度はどうなるかわからない。しかし、策定当時は 220 万冊の４割増である 300 万冊を数値目標として掲げたが、現実的になってきた。

・人口 30 万人については、来年には到達しそうである。赤ちゃん 3,000 人については、もう少しかかりそうだが、夢物語ではなくなってきた。

・行政がお預かりしている税金で本を買いそろえて、貸し出して、読んで頂ければ、各家庭で買うよりもコストは安くて、いい本に出会える。

・本を通して、様々な寛容な精神であったり、いろんな感情が養われ、知識も増える。また、行政が本を買い揃えることで、市民負担も軽減する。その結果、「やさしいまち」に近づくという考え方である。

・行政が本を買うことは無駄ではない。行政が本を買うことで、浮いたお金を自分の子どもや家族のため、いろんなことに充ててほしい。
・「本のまち 明石」の取組状況を踏まえて、今後の展開などのご意見を賜りたい。

（教育委員会）
・ビブリオバトルは、中学校では魚住東中学校、小学校では王子小学校で取り組んでいる。

（市長）
・その他にアスピアのウィズ明石において、ＮＰＯ法人がビブリオバトルに取り組んでいる。
・かつては、西部図書館においても取り組んでおり、あかし市民図書館の開館１周年記念時においても、イベントの一環としてビブリオバトルを実施した。

（教育委員会）
・本の貸出冊数 300 万冊について、駅前の市民図書館のおかげで増えたイメージがあるが。

（市長）
・図書館が駅前にオープンし、足を運び易くなったこともあるが、これからは学校の子どもたちが教室や図書室で本を借りてもらったり、移動図書館車を走らせたりするなど、駅前の図書館だけでなく幅広く取り組んでいく。

（教育委員会）
・今の中学生は、どんな分野の本を読んでいるのか。
・ビブリオバトルについては、国語科の担当者会を中心に取り組んでいるため、本のジャンルが文学などに偏らないか心配である。
・まもなく新しい共通テストがスタートするが、試行テストにおいて数学や理科の教科でも文章を読ませて解いていく事例が増えている。
・文学も大切であるが、自然科学などのいろんな分野にも目を向けるべきである。
・2018 年度の本の貸出冊数は昨年と比べてどうなのか。

（担当職員）
・昨年と比べ、図書館は少し減っている状況であるが、今年は７月に移動図書館車を増やしており、今後増える要素はある。

（市長）
・数値目標のみにこだわるのではなく、「いつでも、どこでも、だれでも、手を伸ばせば本のまち」としての環境整備に着実に取り組み、いろんなことに充実を図ることが大事である。

（教育委員会）
・学校司書の配置は、現場から大変助かっていると聞くため、全小中学校に配置を拡大していくことは大変ありがたい。
・学校の図書委員は様々な取組を行っており、例えば学級ごとに本の貸出冊数をグラフにして、月ごとに順位を発表した取組も行っている。ただクラスごとにかなり差があり、あるクラスは同じ生徒がずっと借りているため順位は高いが、別のクラスでは全く借りる人がいない状況であったりする。
・特定の生徒だけが借りるだけではなく、いろんな生徒が少しでも借りるような方策を教育委員会として検討していかなければいけない。

（教育委員会）
・これからの時代、特に高齢者や障害者にとって、手を伸ばせば本に届くことは大事である。
・以前、学校の図書室の鍵が閉まっていた事例があり、その理由が生徒指導上の問題によるものということだった。しかし、本を読むことで逆にそういった問題を解決できたりするので、司書を全校に配置し、図書室がいつも開いていることは大事な取組である。
・中学校給食が始まった頃、配膳の間に教室の後ろにある本を読んでいる生徒を見かけた。教室内に本を並べておくことも大事だと感じた。

（市長）
・現在、中学校において、昼休みに図書室は開いているのか。

（担当職員）
・基本的には開いている。一部の学校では開館が不定期になる事例もあるが、リクエストによる本の貸出を行ったり、何らかの形で本に触れる取組を実施している。

（教育委員会）
・小学校は読書の時間を設けており、図書室で本の貸出も含めた取組を行っている。
・図書室の本は、必ずしも文学系に偏っているわけではなく、科学や明石の自然といった分野の本も置いている。
・低学年の児童を中心に漫画みたいな本を読んでいる。本を読むきっかけとしては必要と感じるが、文章をしっかりと読み、言葉を理解していくことが大事である。

（市長）
・駅前の市民図書館は、他の図書館に比べて、置いている漫画の比率は低い。
・漫画だから一律駄目というわけでもなく、いろいろ意見がある。その辺も検討してもいい。

⑵ 明石市制100周年記念日（2019年11月1日）の取り組みと午後の授業について

・教育長から、資料２に基づき、明石市制 100 周年記念日（2019 年 11 月 1 日）の取り組みと午後の授業について説明。

（市長）

・来年は、明石市制 100 周年かつ明石城築城 400 年というメモリアルイヤーである。
・現在、いろいろ検討している最中であるが、11 月１日の市制記念日は午前中に記念式典をする可能性が高い。あとＢ－１グランプリの全国大会が、11 月 23 日、24 日に行われる。
・幅広くイベントを開催しつつ、100 周年を盛り上げていきたい。
・それぞれのジャンルごとに冠事業として、これまでの事業をバージョンアップすることも検討中である。
・子どもたちもせっかくのメモリアルイヤーを迎えるので、明石に対して関心を持ったり、100 年の歴史を学んだり、教育委員会でも 100 周年に合わせて何か取組ができないかと考える。

（教育委員会）

・小学校の５、６時間目に、明石のことや夢を抱くような創作活動は難しいテーマである。
・例えば、明石のジオラマや天文科学館などを作り、展示することも面白いと思う。

（教育委員会）

・100 周年を記念して明石の名物である鯛や蛸を出すなど、普段とは違う給食が提供できれば。

（教育委員会）

・市制がスタートした 100 年前はどういう時代だったのか。100 年をピンポイントで考えるのも大事だが、100 年間を子どもたちに振り返ってもらうのはどうか。

（市長）

・明石の良さのひとつは歴史があるまちということ。だからこそ長い歴史で根付いている秋祭りなどの伝統行事が残っており、子どもたちにも地域の歴史の重みや明石の強みを感じてもらえたら。
・明石は、長い歴史の中、この地で営みを続けてきた自然豊かな恵みのエリアであり、子どもたちには歴史を感じてもらうことができればと思っている。

（教育委員会）

・明石では「にらみ鯛」で正月を迎えるということで、こういった経験ができない子どもたちのために、学校給食で「にらみ鯛」を出すのはどうか。

（市長）

・せっかくの 100 周年であり、子どもたちの思い出に残ればと思うので、いつもの給食よりは豪華にしたい。

（教育委員会）

・小学校３年生では、明石の特産物や歴史、地域の変遷などが載った「わたしたちの明石」という冊子を授業で使い、子どもたちに明石のことを教えている。明石を知る入門書としてとても優れている。

（市長）

・100 周年をきっかけに、明石の歴史を学び、自分の住んでいる地域に愛着を持つことができれば。

⑶ その他

（市長）

・せっかくなので、他のテーマでもいいので気になることでもあれば。

（教育委員会）

・ＬＧＢＴの問題もある中、女子の制服にズボンがあればと思う。

・お金がかかることかもしれないが、選択制にすればいいのでは。

（教育委員会）

・制服の件は、男女兼用も含め考えてもいい。

（市長）

・そのテーマはいくつか論点があり、ＬＧＢＴはその対応を含めて最近議論が始まっており、トイレや制服もそうだが、教育現場と密接に関係してくる話である。スカートを穿くことに抵抗感を持つ子どももいると報道されており、ひとつの論点として検討を始めてもいい。

・保護者が負担する金額の問題や一律がいいかどうかの選択の問題もあるので、せっかくなので他方面から検討を始めてもいい。

（教育委員会）

・働き方改革のひとつでもある校務支援システムの導入は、魔法の杖になる可能性があるという話を聞く。明石市には若い先生が多いため、新しいシステムを導入しても早い段階で結果が出るのではないか。

（市長）

・校務支援システムは、かねてから大事なテーマであることは認識している。

・先生の負担軽減という面では、重要なテーマであると認識しており、引き続き検討していきたい。

（教育委員会）

・この前に出席した講演において、コミュニティスクールや地域で学校を支えることによって働き方改革が推進されるという話を聞いた。みんながそういう意識で動かないと前に進まないと考える。

（市長）

・先生方のみがすべからく子どもたちに献身するのではなく、地域の方々の力を借りながらのほうが先生方の負担軽減にもつながるし、子どもにとってもプラスになるので、方向性としては地域に支えられる学校への取組を引き続きお願いしたい。

３　閉　会

（市長）

・総合教育会議の次回開催も予定しており、密に情報共有化しながら、市長部局と教育委員会がしっかりとタッグを組んで、いい方向付けをしていきたい。

以上